

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 4272200157 | | |
| 法人名 | 株式会社 夕波 | | |
| 事業所名 | グループホーム夕波 | | |
| 所在地 | 長崎県五島市野々切町253-1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和7年7月15日 | 評価結果市町村受理日 | 令和7年10月14日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|---------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構 |
| 所在地 | 長崎県島原市南柏野町3118-1 |
| 訪問調査日 | 令和7年9月8日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

最近停滞気味ではあるが、Instagramに写真を掲載することで遠方のご家族などに入居者様の様子を伝える事ができるようにしている。食事に関しては夕食などに冷食を取り入れ、料理の時間短縮ができる事で、スタッフが入居者とより多くの時間を過ごせるようにしている。生活リハビリは行っているが、グループホームはあくまで家庭生活の延長上であるため決して無理はさせず、本人の意思・意向を聞きながら最低限行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、海を望む優れた立地環境を最大限に活かし、入居者が心穏やかに過ごせる生活環境が整えられている。この恵まれた環境そのものが、入居者の心身に良い影響をもたらしていることがホームの大きな強みとなっている。入居者の日々の生活の様子や笑顔は、SNSや便りを通じて家族に積極的に伝えられている。こうしたきめ細やかな情報共有は、家族の安心感と施設への信頼を深めるための重要な工夫であり、入居者本人だけでなく、家族の大きな支えにもなっている。訪問調査時において、管理者が「人生の最期をどう迎えるか」、「ご本人の思いをどのように聴き、叶えるか」を使命として職員に共有していることが印象的であった。理念を日々の支援に結びつけ、職員一人ひとりが高い使命感を持って関わろうとする姿勢は、今後ますますの質の向上に繋がるものと期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況(ユニット名:ひまわり棟) | 実践状況(ユニット名:あじさい棟) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事務所、各棟に理念・基本方針を掲示しており、毎朝の申し送り時にその場の全員で読み上げている。 | 事務所、各棟に理念・基本方針を掲示しており、毎朝の申し送り時にその場の全員で読み上げている。 | 令和5年4月に代表者および会社名の変更があったが、開設当初に全職員で策定した理念を継承し、運営している。理念は玄関や事務所に掲示され、朝礼や月に一度のミーティングで唱和することで、職員が日々の業務において理念を意識するよう取り組まれている。今後は新しい職員の入職もあることから、年に一度の振り返りの機会を設け、理念と日々の支援との繋がりを再確認していくことを管理者は検討されている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 近隣小学校との交流をしていたが、今年廃校。隣町の小学生との交流を模索中である。町内の運動会などには招待されるので、参加可能な方は参加していただく。 | 近隣小学校との交流をしていたが、今年廃校。隣町の小学生との交流を模索中である。町内の運動会などには招待されるので、参加可能な方は参加していただく。 | 入居者が地域の一員として、地域と継続的に関わりながら生活できるように取り組んでいる。小学校との交流は閉校に伴い減少したものの、秋には町内運動会への参加が予定されており、地域行事への参加を通じて、地域社会との繋がりを維持されている。防災面においても、地域と連携した取り組みが評価されている。地区の合同避難訓練や、近隣のグループホーム2か所と合同での避難訓練を実施するなど、有事の際の連携体制を構築されている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 認知症の人の理解・支援方法を地域の人々に向けて発信はできていない。 | 認知症の人の理解・支援方法を地域の人々に向けて発信はできていない。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 施設の取組状況は会議毎に報告を行っている。地域の方々から意見をいただいた場合は真摯に受け止め、サービス向上に活かしている。 | 施設の取組状況は会議毎に報告を行っている。地域の方々から意見をいただいた場合は真摯に受け止め、サービス向上に活かしている。 | 運営推進会議は、市職員、民生委員、家族代表、町内会長、およびホーム職員で構成され、2か月に一度開催されている。会議では、ホームの現状報告や町内イベント情報、市との連携に関する情報が共有され、サービスの質の向上に活かされている。会議内容は議事録に分かりやすく整理されており、会議の透明性が確保されていることが確認できた。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|--|---|
| | | | 実践状況(ユニット名:ひまわり棟) | 実践状況(ユニット名:あじさい棟) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 体制変更時や市の補助金など、不明な点があればすぐに連絡を取って聞けるような関係性は構築できている。 | 体制変更時や市の補助金など、不明な点があればすぐに連絡を取って聞けるような関係性は構築できている。 | ホームは、市町村の関係者と日常的に連絡を取り合っており、運営上の疑問点については、運営推進会議や日々のやり取りの中で確認し、適切な返答を得ている。ホームから市へ「介護職員へのハラスメント防止のチラシ」の作成を提案し、それが実現したという実践例がある。この提案は、市がチラシを作成して各事業所へ配布するという取り組みへと繋がり、業界全体の課題に貢献した。このような積極的な提案と行政との協働の姿勢は高く評価できる。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 転倒の危険がある方でも安易にセンサーに頼るのではなく、根本的な解決をするよう努力している。玄関施錠も基本的に行わないよう周知徹底している。 | 転倒の危険がある方でも安易にセンサーに頼るのではなく、根本的な解決をするよう努力している。玄関施錠も基本的に行わないよう周知徹底している。 | 転倒のリスクがある入居者に対して、安易にセンサー等の機器に頼るのではなく、筋力維持やホーム内での歩行訓練などを通じて、根本的な解決に向けた支援が行われている。玄関は、特別な場合を除き原則として施錠されておらず、身体拘束をしないケアを徹底されている。 | 運営規定および重要事項説明書に「虐待の防止のための措置に関する事項」の記載がなかったため、明記することが望まれる。これにより、今後は職員、入居者様、そして家族に対し、ホームとして虐待防止に真摯に取り組む姿勢を、より明確に示すことが期待される。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待防止委員会を設立し、委員主催の研修を年に2回行うようにしている。委員自体も外部研修を受け、その後必ず伝達研修を行うこととしている。 | 高齢者虐待防止委員会を設立し、委員主催の研修を年に2回行うようにしている。委員自体も外部研修を受け、その後必ず伝達研修を行うこととしている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度について学ぶ機会は現状ない。同制度を利用している入居者がいるので、その機会を検討している。 | 成年後見制度について学ぶ機会は現状ない。同制度を利用している入居者がいるので、その機会を検討している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|--|---|
| | | | 実践状況(ユニット名:ひまわり棟) | 実践状況(ユニット名:あじさい棟) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時・解約時は説明を十分に行い、不明点等あればその場に限りならずいつでも訊ねていただくよう進言している。 | 契約時・解約時は説明を十分に行い、不明点等あればその場に限りならずいつでも訊ねていただくよう進言している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者の要望は常にスタッフや管理者が受け止め、可能な限り実現できるよう努力している。家族の意見等はご意見箱を設け、そこで意見を聞けるような体制にしている。 | 利用者の要望は常にスタッフや管理者が受け止め、可能な限り実現できるよう努力している。家族の意見等はご意見箱を設け、そこで意見を聞けるような体制にしている。 | 家族との双方向のコミュニケーションを重視している。家族が面会時に直接、意見や要望を伺う機会を設けるとともに、入居者の様子をSNSや家族向けの便りで定期的に発信し、より活発な情報交換を可能にしている。家族の声を幅広く収集し、運営に反映させるための体制が整備されている。具体的には、ホーム内に意見箱を設置するほか、外部評価時のアンケートも積極的に活用されている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 勤務体制や職務内容の意見はリーダーを通してなどに限らず、スタッフが直接、管理者や代表者に訴えられるようにしている。反映されるべきと判断した意見は即座に反映させるようにしている。 | 勤務体制や職務内容の意見はリーダーを通してなどに限らず、スタッフが直接、管理者や代表者に訴えられるようにしている。反映されるべきと判断した意見は即座に反映させるようにしている。 | 代表者や管理者が職員の意見や提案を積極的に聞く機会を設けており、職員の声が運営に反映される風土が醸成され、実際に職員の提案から夏祭りやイベントが企画・実施され、入居者様の楽しみにつながっている。職員の働きやすさにも配慮しており、タブレットの導入などにより、事務作業の負担軽減を図っている。代表者は、風通しの良さやチーム内の調和を大切にしており、職員が意見を上げやすい雰囲気づくりに努めている。 | 令和5年に新しい体制へ移行されて以降、管理者は職員との良好な関係構築に向けて試行錯誤されている状況が窺える。外国人技能実習生や新人職員の受け入れが進む中、多様な人材が円滑に協働できる環境を整えることが今後の重要な課題と言える。次のステップとして、待遇に関する検証や、パワーハラスメント、カスタマーハラスメントをテーマとした研修をさらに充実させることを期待したい。 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者は、スタッフ全体を見ていかに最適な職場環境を作るかに注力している。特に給与水準に関しては介護業界全体の薄給を憂いており、最適な給与に近付けることができるよう努力している。 | 代表者は、スタッフ全体を見ていかに最適な職場環境を作るかに注力している。特に給与水準に関しては介護業界全体の薄給を憂いており、最適な給与に近付けることができるよう努力している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------------------------------|----|--|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況(ユニット名:ひまわり棟) | 実践状況(ユニット名:あじさい棟) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 代表者は、スタッフ全員の力量等を概ね把握している。研修は現在オンライン研修に委ねているところが大きいので、今後個々に合わせた外部研修等も取り入れていくことを検討している。 | 代表者は、スタッフ全員の力量等を概ね把握している。研修は現在オンライン研修に委ねているところが大きいので、今後個々に合わせた外部研修等も取り入れていくことを検討している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 現在同業者との交流機会はないが、必要性は感じているため機会検討をしている。 | 現在同業者との交流機会はないが、必要性は感じているため機会検討をしている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所前に本人や家族から性格や趣味嗜好を伺い、会話の糸口にする。特に入所初期は不安・孤独などを強く感じる方が多く見受けられるので、訴えに耳を傾け、安心して過ごせるにはどうしたらよいかをスタッフ間で話し合う。 | 入所前に本人や家族から性格や趣味嗜好を伺い、会話の糸口にする。特に入所初期は不安・孤独などを強く感じる方が多く見受けられるので、訴えに耳を傾け、安心して過ごせるにはどうしたらよいかをスタッフ間で話し合う。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | トラブル等を未然に防ぐためにも入所前・後、特に意思・要望等を訊ねるようになっている。 | トラブル等を未然に防ぐためにも入所前・後、特に意思・要望等を訊ねるようになっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況(ユニット名:ひまわり棟) | 実践状況(ユニット名:あじさい棟) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | その方に見合ったサービスや支援が当施設では不適合と判断できれば、他サービスを勧めるなどの対応をしている。 | その方に見合ったサービスや支援が当施設では不適合と判断できれば、他サービスを勧めるなどの対応をしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | グループホームは家庭の延長という性格上、もとより利用者は介護される一方ではないというスタンスをとっている。できる方には洗濯物や食器洗いなどをさせていただき、共に生活をしているという意識を持っていただくようにしている。 | グループホームは家庭の延長という性格上、もとより利用者は介護される一方ではないというスタンスをとっている。できる方には洗濯物や食器洗いなどをさせていただき、共に生活をしているという意識を持っていただくようにしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | できる方には外出・外泊を積極的に行っていただくよう声掛けはしているが、家族の中には預けたらそれっきりという方もおり、どのように関わるべきか思案を重ねている。 | できる方には外出・外泊を積極的に行っていただくよう声掛けはしているが、家族の中には預けたらそれっきりという方もおり、どのように関わるべきか思案を重ねている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている | 自宅から通っていた美容室やスーパーなどある場合、本人の認知症症状や現状の健康状態などを鑑みて、できる限り通い続けられるように支援している。 | 自宅から通っていた美容室やスーパーなどある場合、本人の認知症症状や現状の健康状態などを鑑みて、できる限り通い続けられるように支援している。 | 新型コロナウイルス感染症流行以前と同様に、面会制限を設けることなく自由な面会を可能にしている。入居者は自由に携帯電話を使用して家族や友人と話すことができ、また、自宅への外出や墓参りも自由にされている。さらに、長年通っていた馴染みの美容室やスーパーへの外出も職員が付き添うなど、これまでの生活習慣を尊重されている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況(ユニット名:ひまわり棟) | 実践状況(ユニット名:あじさい棟) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 元々の性格も関係したりするため、全員が全員仲良くというわけにはいかないが、相性が良さそうな方々は食堂の席を近づけるなどしている。孤立しそうな利用者はスタッフが聞き役にできるよう努めている。 | 元々の性格も関係したりするため、全員が全員仲良くというわけにはいかないが、相性が良さそうな方々は食堂の席を近づけるなどしている。孤立しそうな利用者はスタッフが聞き役にできるよう努めている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了しても、必要であれば相談を受け付ける体制にしている。 | 契約終了しても、必要であれば相談を受け付ける体制にしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人の意思・意向をはっきり示せる方にはそれを聞き取りし、できる限り希望に添えるよう支援するようにしている。それが困難な場合は、どのような支援が本人にとって最適であるかをスタッフ間で話し合い、実践するようにしている。 | 本人の意思・意向をはっきり示せる方にはそれを聞き取りし、できる限り希望に添えるよう支援するようにしている。それが困難な場合は、どのような支援が本人にとって最適であるかをスタッフ間で話し合い、実践するようにしている。 | 入居者の小さな願いや個別の希望を大切にしたい支援が行われている。具体的には、入居者様が希望された食べ物を実際に購入するなど、日々の暮らしの中で一人ひとりの思いや生活スタイルを尊重する姿勢が見受けられた。個々のニーズに応じた柔軟な対応は、入居者と家族の満足度向上にも繋がるものであり評価できる。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 生活歴・生活環境等は情報提供書その他家族、本人からの聞き取りなどによっての把握に努め、随時確認できるようにしている。 | 生活歴・生活環境等は情報提供書その他家族、本人からの聞き取りなどによっての把握に努め、随時確認できるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況(ユニット名:ひまわり棟) | 実践状況(ユニット名:あじさい棟) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 普段と様子が違ったりするとバイタルの状態を見たり排便状況の確認、直近他利用者や家族間トラブルがなかったかなど総合的に見て状況把握するようにしている。 | 普段と様子が違ったりするとバイタルの状態を見たり排便状況の確認、直近他利用者や家族間トラブルがなかったかなど総合的に見て状況把握するようにしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人からの聞き取りを主として、現状で実現可能な介護計画を作成するようにしている。 | 本人からの聞き取りを主として、現状で実現可能な介護計画を作成するようにしている。 | 入居者、家族、職員間の話し合いを通じて、現状に即した介護計画が作成されている。しかし、タブレットでの日常記録入力を中心となったことで、職員が介護計画書を直接確認する機会が減少している状況も確認された。この課題に対し、介護支援専門員は短期目標の一覧表を新たに作成し、介護計画書を日常的に確認できる仕組みを構築することを検討されている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 行動パターンや周辺症状の出方が変わってきたりした場合、まず記録申し送りにてスタッフ間共有し、その後の対応を随時検討・実践を繰り返している。 | 行動パターンや周辺症状の出方が変わってきたりした場合、まず記録申し送りにてスタッフ間共有し、その後の対応を随時検討・実践を繰り返している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 柔軟な支援は心がけているが、現状スタッフで実現可能なものに留めるようにしている。言葉は悪いが、ともしれば隷属化に繋がりがかねないためバランスは注視している。 | 柔軟な支援は心がけているが、現状スタッフで実現可能なものに留めるようにしている。言葉は悪いが、ともしれば隷属化に繋がりがかねないためバランスは注視している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況(ユニット名:ひまわり棟) | 実践状況(ユニット名:あじさい棟) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 外が好きな方はドライブ、音楽が好きな方には動画などで好きな歌を視聴してもらったりと、利用者各々が好む自然・文化・人などの地域資源を把握するように努めて支援に繋げている。 | 外が好きな方はドライブ、音楽が好きな方には動画などで好きな歌を視聴してもらったりと、利用者各々が好む自然・文化・人などの地域資源を把握するように努めて支援に繋げている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医、協力医療機関等で必要に応じて受診、相談ができるように支援している。 | かかりつけ医、協力医療機関等で必要に応じて受診、相談ができるように支援している。 | 入居者の通院時の受診介助を職員が対応している。受診後には家族への報告・連絡が確実に行われており、薬の変更があった場合も職員間で円滑な申し送りが実施されていることが確認できる。緊急時には、訪問看護事業所との協力体制が確保されており、入居者が適切な治療を受けられるよう支援する体制が整っている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 基本1日/週訪問看護師に来ていただいており、その際に気になることなどの相談を行っている。月に4回までは時間外相談可能なため、適切な受診や看護を受けられるようそのサービスを積極的に利用して支援に繋げている。 | 基本1日/週訪問看護師に来ていただいており、その際に気になることなどの相談を行っている。月に4回までは時間外相談可能なため、適切な受診や看護を受けられるようそのサービスを積極的に利用して支援に繋げている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院時はこちらからの情報提供はもちろんのこと、病院関係者からも情報共有をしてくれるような関係づくりを行っている。 | 入院時はこちらからの情報提供はもちろんのこと、病院関係者からも情報共有をしてくれるような関係づくりを行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|--|--|
| | | | 実践状況(ユニット名:ひまわり棟) | 実践状況(ユニット名:あじさい棟) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | まず入所時に看取り介護について、事業所としてできることを伝える。主治医の判断によりその時がきたら、関係各位と連携し支援を行う。 | まず入所時に看取り介護について、事業所としてできることを伝える。主治医の判断によりその時がきたら、関係各位と連携し支援を行う。 | ホームには看護師が常駐していないため、現状では看取り介護の実施に課題が見られる。しかし、管理者からは、将来的に体制を整えば看取りまで行いたいという方針が示されている。この方針を実現するため、地域医療機関や訪問看護との連携を視野に入れた前向きな姿勢が確認でき、今後、これらの連携体制が確立されることで、入居者が最期まで住み慣れた場所で安心して過ごせる環境が整うことが期待される。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時の初期対応や緊急連絡先は各棟に掲示している。実務訓練は全員に行っていないため、検討している。 | 急変時の初期対応や緊急連絡先は各棟に掲示している。実務訓練は全員に行っていないため、検討している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている | 災害時は近隣の3グループホームで共助可能なように協力体制をとっている。避難訓練の際は各グループホームで互いに参加するようにしている。 | 災害時は近隣の3グループホームで共助可能なように協力体制をとっている。避難訓練の際は各グループホームで互いに参加するようにしている。 | 防災訓練を定期的実施されており、職員は避難誘導の手順の習得に努めている。地域との連携も密に図られており、地域の指定避難所にもなっている。また、火災を未然に防ぐための管理体制を整え、入居者および地域住民の安全に貢献している。 | BCP(業務継続計画)を策定されていることが確認できた。しかしながら、策定されたBCPに沿った訓練はまだ実施されていない。今後は、BCPに沿った訓練(机上訓練を含む)などを定期的実施し、職員がBCPに沿った具体的な対応手順を習熟することが望まれる。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ある程度の関係づくりができている場合は方言で話す事をすすめている。しかしなあなあになってしまう事もあるので、適切な声掛けというものを都度線引している。 | ある程度の関係づくりができている場合は方言で話す事をすすめている。しかしなあなあになってしまう事もあるので、適切な声掛けというものを都度線引している。 | 入居者が家庭の延長のように感じられるよう、関係づくりができている場合は管理者が職員に方言での会話を推奨している。一方で、入居者をあだ名で呼ばないことや、地域性による強い言い回しに注意を払うよう指導されており、親しみやすさの中にも敬意を払う姿勢を徹底されている。SNSや便りでの写真掲載については、事前に家族から同意を得るなど、プライバシー保護に十分な配慮が行われている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況(ユニット名:ひまわり棟) | 実践状況(ユニット名:あじさい棟) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常に際してはこちらの介助を押し付けることはよしとせず、本人の希望表出や自己決定ができるようにしている。 | 日常に際してはこちらの介助を押し付けることはよしとせず、本人の希望表出や自己決定ができるようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 例えばその日の食事は決まっているが、食欲がないと訴える利用者がいた場合などは食べたい物を聞き、それを買って来て提供したりしている。 | 例えばその日の食事は決まっているが、食欲がないと訴える利用者がいた場合などは食べたい物を聞き、それを買って来て提供したりしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 髪を伸ばしたい方は散髪を無理強いない。一つ結びが好きな方は毎朝その髪型に結ぶ。マニキュアが好きな方はスタッフが塗ってあげたりしている。 | 髪を伸ばしたい方は散髪を無理強いない。一つ結びが好きな方は毎朝その髪型に結ぶ。マニキュアが好きな方はスタッフが塗ってあげたりしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | できる方に限ってだが、野菜の皮むきやその他下処理、後片付けや食器洗いを手伝っていただいている。 | できる方に限ってだが、野菜の皮むきやその他下処理、後片付けや食器洗いを手伝っていただいている。 | 調理専門の職員が、入居者の嗜好や季節感を大切にメニューを考案し、提供している。誕生日会や行事食も取り入れることで、日々の食事に特別感と楽しみが加えられている。食事の準備や配膳、片付けに至るまで、入居者が職員と一緒にいる機会が設けられている。これにより、入居者は食事を単に提供されるものとしてではなく、「自らが関わる楽しみ」として捉えることができている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況(ユニット名:ひまわり棟) | 実践状況(ユニット名:あじさい棟) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分制限があったり、逆に水分目標が高く設定されている方など様々なので、全スタッフが各棟利用者の食事・水分の適量を把握し支援している。 | 水分制限があったり、逆に水分目標が高く設定されている方など様々なので、全スタッフが各棟利用者の食事・水分の適量を把握し支援している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔内清潔は口臭のみならず肺炎予防にも繋がることを周知し、ケアを行っている。 | 口腔内清潔は口臭のみならず肺炎予防にも繋がることを周知し、ケアを行っている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 夜間は歩行能力の問題等でトイレやポータブルトイレを使用する方が本人負担となる場合おむつを使用する。日中に限り、いたずらに自尊心を侵さないよう、おむつ使用ゼロでケアをするよう心がけている。 | 夜間は歩行能力の問題等でトイレやポータブルトイレを使用する方が本人負担となる場合おむつを使用する。日中に限り、いたずらに自尊心を侵さないよう、おむつ使用ゼロでケアをするよう心がけている。 | 入居者が自立した排泄を継続できるよう、日中はリハビリパンツや布パンツを使用するなど、残存機能を活かした支援が行われている。「トイレ」の場所を示す表示に工夫を凝らすとともに、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握した上で、適切な声かけを実施している。こうした環境整備と個別の対応により、入居者が自立的に排泄に取り組むことができる体制が整えられている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 慢性的に下剤服用を続けると身体が慣れてしまい容量が増えていくことが往々にしてあるので、できる限り下剤には頼らないよう飲水量や運動を行い適切な排便を促せるよう支援している。 | 慢性的に下剤服用を続けると身体が慣れてしまい容量が増えていくことが往々にしてあるので、できる限り下剤には頼らないよう飲水量や運動を行い適切な排便を促せるよう支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況(ユニット名:ひまわり棟) | 実践状況(ユニット名:あじさい棟) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 集団生活であるため、基本的には入浴の曜日・時間帯を設定している。本人の希望ややむを得ない状況である場合に限り、任意のタイミングで入浴をしていただく。 | 集団生活であるため、基本的には入浴の曜日・時間帯を設定している。本人の希望ややむを得ない状況である場合に限り、任意のタイミングで入浴をしていただく。 | 週3回の入浴を基本とし、本人が快適な入浴時間を過ごせるように配慮し入居者の清潔保持に努めている。入浴を強く拒否される入居者に対しては、職員が交代で声かけを行うなど、無理強いることなく、その方のペースに合わせた支援が行うよう努めている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 消灯時間は設けていないが、昼夜逆転になると服薬時間などもずれ込んできてしまったりするため、深夜まで覚醒されている方などには声掛けをさせていただく。 | 消灯時間は設けていないが、昼夜逆転になると服薬時間などもずれ込んできてしまったりするため、深夜まで覚醒されている方などには声掛けをさせていただく。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 全員の服薬内容をファイリングして各棟に設置しており、必要の際はすぐに確認できるようにしている。 | 全員の服薬内容をファイリングして各棟に設置しており、必要の際はすぐに確認できるようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 入所の際に興味・嗜好を聞き出し、可能ならば施設内で続ける事ができるように支援をしている(編み物、ラジオなど)。また季節に応じて外で食事を摂るなどして気分転換を図っている。 | 入所の際に興味・嗜好を聞き出し、可能ならば施設内で続ける事ができるように支援をしている(編み物、ラジオなど)。また季節に応じて外で食事を摂るなどして気分転換を図っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況(ユニット名:ひまわり棟) | 実践状況(ユニット名:あじさい棟) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | できる限り本人の希望を叶えられるように支援をしている。お盆時期に家族は連れて行けないが本人はお墓に行きたい、といった場合は本人案内にてお墓まで同行した事例もある。 | できる限り本人の希望を叶えられるように支援をしている。お盆時期に家族は連れて行けないが本人はお墓に行きたい、といった場合は本人案内にてお墓まで同行した事例もある。 | 入居者の希望を尊重した外出支援に努めている。買い物やドライブなど、個別のニーズに応じた外出を実施することで、入居者の日々の生活に楽しみと潤いをもたらしている。家族や地域の協力も得ながら、自宅への一時帰宅や墓参りといった個人の希望を叶えられるよう支援されている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 認知症の周辺症状により盗られ妄想が出現する場合があるので、説明の上 基本的に本人居室にはお金を置いていただかないようにしている。買い物に同行する場合は預かっていたお金を渡し、ある程度自由に使ってもらえるようにしている。 | 認知症の周辺症状により盗られ妄想が出現する場合があるので、説明の上 基本的に本人居室にはお金を置いていただかないようにしている。買い物に同行する場合は預かっていたお金を渡し、ある程度自由に使ってもらえるようにしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話をかけたい等の訴えがある場合には事務所の電話機を貸し出し、お話ししていただくようにしている。 | 電話をかけたい等の訴えがある場合には事務所の電話機を貸し出し、お話ししていただくようにしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用空間のみならず施設全体を通して壁紙や照明に配慮し、不快感をなくすようにしている。また、季節に応じた飾り付けを行っている。 | 共用空間のみならず施設全体を通して壁紙や照明に配慮し、不快感をなくすようにしている。また、季節に応じた飾り付けを行っている。 | 共有空間の壁飾りやタペストリーを季節ごとに変えることで、家庭的で温かみのある雰囲気を演出している。また、窓から海や桜の木を眺められるよう、廊下やリビングに椅子を配置するなど、入居者が四季の移ろいを身近に感じられるような工夫が随所に凝らされている。清掃は毎日実施され、感染対策も徹底されており、入居者が安全で快適に過ごせる環境を維持する上で評価できる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況(ユニット名:ひまわり棟) | 実践状況(ユニット名:あじさい棟) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共用空間の中にもベンチや椅子を点的に設置しており、利用者が好きなように利用できるようにしている。 | 共用空間の中にもベンチや椅子を点的に設置しており、利用者が好きなように利用できるようにしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | こたつ・仏壇・遺影・冷蔵庫などなど、本人にとって居心地良く感じたり、あると安心な物品は持って来ていただいている。 | こたつ・仏壇・遺影・冷蔵庫などなど、本人にとって居心地良く感じたり、あると安心な物品は持って来ていただいている。 | 日々の清掃に加え、週1回のシーツ交換を徹底することで、常に清潔で快適な居住空間が保たれている。入居者が使い慣れた家具や好みの品を持ち込み、その配置や使い方についても本人の希望を尊重されている。入居者が自身の生活スタイルを継続しながら、安心して暮らせる環境を提供されている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 見当識障害が現れている方も多いため、居室やトイレ位置がすぐに把握できるよう大きな文字で張り紙をしたりしている。 | 見当識障害が現れている方も多いため、居室やトイレ位置がすぐに把握できるよう大きな文字で張り紙をしたりしている。 | | |